

第620回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2020年2月度 ——

- ◇ 開催日
2020年2月17日(月)
- ◇ 議題
＜ラジオ番組＞
「小林徹夫のアサデス。ラジオ」
放送日：2019年12月4日(水)
- ◇ その他

九州朝日放送株式会社

第620回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2020年2月17日(月)午後3時30分～4時45分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長	池田 勝
副委員長	戸田 康一郎
委員	山崎 靖
委員	石井 靖子
委員	安恒 万記
委員	守田 有理子
委員	赤木 由美

欠席委員数 1名 (レポート代読)

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
取締役 総合編成局長	森 君 夫
取締役 報道情報局長	佐 伯 拓 史
ラジオ局長	坂 井 剛
ラジオ局 編成制作部長	渡 辺 浩 司
ラジオ局 編成制作部 (番組プロデューサー)	田 原 博 幸
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	井 上 千 秋
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

4. 議 題

- (1) ラジオ番組「小林徹夫のアサデス。ラジオ」＜放送日＞2019年12月4日（水）
- (2) 2020年2月・3月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 2020年1月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 全体を通して、ベテランの小林徹夫アナウンサーは非常に聴き取りやすく、安定がある番組だと感じた。コメンテーターも含め出演者の声のトーンや口調、スピードもほど良く、とても聴きやすかった。小林アナウンサーの熟達さや問題意識の抱き方により、「くだけ具合」が見事に実現されていた。
- スポーツライターに電話出演いただきソフトボールの上野由岐子選手のエピソードが語られた「コバヤシスポーツ～今朝の三枚おろし」は、ライター自らの言葉だからこそ上野選手の人となりを感じることができたと思う。スポーツライターのネット記事を時々読むが、文字よりもライターの言葉はより楽しめることを発見した。
- 現職警察官による殺人事件の話題で小林アナウンサーが言葉を選びながらも自分の意見を言う姿には好感が持てた。そうした市民感覚をラジオで紹介することは重要だと思う。また、弁護士と元検事の弁護士が別の立場で話をする構成も、どちらかの意見に誘導されることなく、双方の意見をリスナーが考える時間になったと思う。
- 「栄作のお天気お答えします！」は、お天気の情報だけに止まらず、リスナーが何をするのかということを考えながら、いろいろなシチュエーションに応じたアドバイスも加えられていた。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 現職警察官による殺人事件の話題について、前半の「フォーカスイン」と後半の「ニュースここ大事」で2度取り上げられていたが、トータルで考えると時間的な長さを感じた。弁護士に何度も食い下がる小林アナウンサーにも少し違和感を覚えた。
- 「ラジオで深オイ」でイカ不漁の話題が出たが、現状だけを伝えるのではなく、もう少し踏み込んでほしかった。どこの店でイカが食べられるのかを役所に電話すれば教えてもらえるという情報は有益だったが、問い合わせ先の電話番号も伝えてほしかった。
- 「フォーカスイン」のコーナーで弁護士が相続法改正に伴う遺言についての解説を行ったが、朝の時間帯の内容として適切なのかと感じた。興味を持ったリスナーが放送後にホームページなどで確認できる仕組みがあればと思った。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 現職警察官による殺人事件について、前半の「フォーカスイン」で弁護士に意見を求める想定はしていなかった。ただ、連日の報道がある中で、小林アナウンサーとスタッフ間でしばしば話題にしていたので、弁護士と元検事で弁護士の異なる立場にある専門家がどう考えているのか聞いてみたかった。後半の「ニュースここ大事」に元検事の弁護士に出演いただくことが決まっていたので、小林アナウンサーは先に弁護士から十分な話を聞き出そうと考えたようだ。
- イカ不漁の話題の中で、役所の電話番号も伝えてほしかったとの意見があったが、原稿ではお問い合わせ先として役所の電話番号を紹介する用意をしていた。しかし、実際には当日の番組内で紹介できなかったのも、コーナーが終わってからでも紹介すべきだったと考えている。
- 生の声には説得力があり、リスナーを引き込む力がある。新聞の活字だけでは読み取れない疑問について、可能な限り識者や専門家の見解を番組に取り入れたいと思っている。今後も様々なゲストに出演いただき、疑問をぶつけて得られた知識や情報をリスナーと共有したいと思っている。
- どちらかと言えば制作者が全体をハンドリングするテレビ番組に対して、ラジオ番組は出演者と制作者が一緒になって番組を制作している。テレビは整理して伝えるのに対して、ラジオはリスナーと一緒に出演者も疑問を解決しながら学んでいく側面がある。その分、時間を要する場面もあるが、ラジオ特有のパーソナルな感覚に対して出演者も自由度を感じているようだ。

などの説明をしました。